



## グローバルレスポンシブルビジネス

### － コミュニティ －

様々なコミュニティと協働し、地域社会の発展につながる社会貢献活動を推進します。また、事業活動との相乗効果を重視し、豊かで夢のある未来を世界中の人々に提供するとともに、社会への貢献を通じて、社員自らのスキル開発や富士通で働くことへの誇りを向上させていきます。



# コミュニティ

コミュニティ

## 目標

### ありたい姿

社員一人ひとりが幅広いステークホルダーとの共働・共創を通して社会課題への共感性を高めて活動に取り組み、社会にスケールあるインパクトをもたらすことで、富士通の成長機会を創出し、パーパス実現に貢献している。

### 2025 年度目標

コミュニティ活動に対する社員のマインドセット変革・組織風土醸成、および社会へのインパクト創出

- コミュニティ活動に参加した社員 従業員数の 20% (実人数)

### 2022 年度までの目標

企業文化および社員のマインドセット変革への貢献

- 社会課題に関連した社会貢献活動に参加した従業員数の増加率  
ニューノーマル下において、2019 年度比 +10%

## コミュニティ活動の考え方

富士通グループでは、我々にとって重要なステークホルダーの1つである地域社会とグローバルで協力し、コミュニティ活動を推進しています。社会が抱える課題の解決のために、社員一人ひとりが幅広いステークホルダーとの共働・共創を通して社会課題への共感性を高めて活動に取り組み、我々のビジネスの強みを最大限に発揮できる分野を中心に社会にスケールあるインパクトをもたらすことで、富士通の成長機会を創出し、パーパス実現に貢献します。

さらに、これらの活動が創出したインパクトを定量的に把握していくとともに、活動を見直し改善するサイクルを実現することで、より大きな価値を創出し続けます。

## 重点注力分野

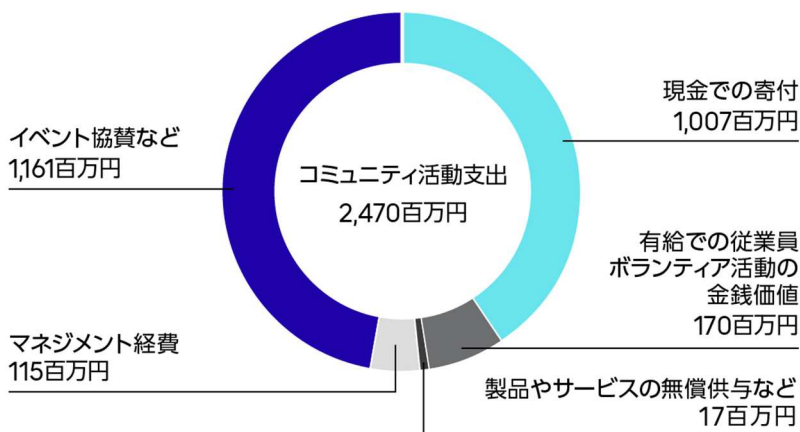


## 2022 年度実績

### 社会貢献活動に関わる支出

富士通が 2022 年度に社会貢献活動に関わる費用として支出した金額は、以下のとおりです。

#### コミュニティ活動支出



※富士通および国内外グループ各社の活動支出をもとに算出

### 社員のボランティア活動支援

富士通グループは、社会に対する社員一人ひとりの積極的な貢献活動を支援するため、ボランティア活動支援制度を整備しています。また、各事業所が所属する地域コミュニティの発展に貢献するため、地域の特性に沿った各種活動プログラムを展開しています。

富士通は青年海外協力隊／シニア海外協力隊参加のための休職制度（最高 3 年間）や、年 5 日・最高 20 日まで積立可能なボランティアのために活用できる休暇制度を設けています。2022 年度には、39 名が積立休暇を取得し（延べ 100 日）、ボランティア活動を行いました。（富士通単体）

## 富士通グループの取り組み（活動事例）

### コミュニティ活動

富士通は、GRB の 6 つの重要課題のうち、コミュニティ活動に連動する人権・多様性、ウェルビーイング、環境に教育を加え、関連する 6 つの SDGs を重点領域と定め活動を推進しています。2022 年度の各地域における活動をいくつかご紹介します。

#### ● Americas



#### 小学校の植樹活動を支援（米国）

– Texas Trees Foundation –



活動に参加した富士通社員

富士通は、[Texas Trees Foundation](#) を通じて、L.O.Donald 小学校 (米国テキサス州ダラス)において 92 本の植樹を行い、近隣に住む方々にも 50 本の苗木を寄贈しました。L.O.Donald 小学校の児童 289 名が、木について学び、木を植え、植えた木の根覆いまで行いました。児童たちは一本一本の木に名前をつけ、これから全ての木を大切に世話していくことを約束しました。

悪天候の可能性が高く、イベント期間が短縮されたにも関わらず、富士通の社員 5 名が、教師と Texas Trees Foundation のスタッフとともにボランティアを行いました。このイベントは関係者全員に、期待を超えるポジティブなインパクトを与えました。これから木が成長するにつれて、この地域では日陰と酸素の量が増え、鳥や他の生物が生活するための安全な避難場所が提供されることとなります。

- > 本活動のプレスリリース (外部サイトヘリンク) :  
[“Dallas ISD’ s L.O. Donald Elementary School Becomes Greener and Healthier with 92 New Trees Planted.”](#)

●活動に参加した社員数：5

● Asia Pacific



若者の未来の可能性を支援 (オーストラリア)

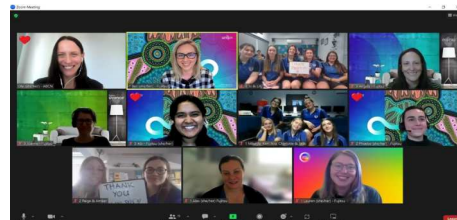
- Australian Business and Community Network -



プログラム修了を祝う富士通オーストラリアのメンターと Elevation Secondary College の学生達 (2022)



対面でのメンタリングの様子



若い女性のリーダーシップスキル構築のためのオンラインプログラムの修了を祝う富士通オーストラリアのメンターと Colo High School の生徒たち (2022 年)

ABCN のメンタリングは、組織を代表してコミュニティに貢献することができ、また、さまざまな業界で働く人と出会うなど自分に変化をもたらすことができる素晴らしい機会となります。資格や経験は必要なく、人の話に耳を傾け、自分の経験を共有する意欲さえあれば誰でも参加できます。富士通では、社員のコミュニティでの積極的な活動を支援するために、ボランティア休暇 (正式名称「Volunteering with Purpose leave」: 3 日間の有給休暇に相当) を利用して参加することを奨励しています。

2023 年も、このパートナーシップとメンターをさらに成長させていきたいと考えています。

富士通のメンター達のコメント

「素晴らしい経験であり、未来の社会に恩返しができます。」 -GOAL メンター、Fujitsu Australia (2022)

「この活動を通じて学びの旅を続け、自分の洞察を他の人と共有する機会を得ることができました。」 - Focus メンター、Fujitsu Australia (2022)

- 活動に参加した社員数：32 名  
32 名の個人ボランティアが参加し、その多くが複数回参加
- 直接の受益者数：93 名  
6 校、93 名の生徒へメンタリング



### あらゆる人々に健康と福祉を実現するための医療サービス（インド）

- HelpAge India とのパートナーシップによる Mobile Healthcare Unit の設立 -



毎回女性スタッフが在籍し女性により身近なサービスを提供



無料のカウンセリングや治療を実施

インド・プネの農村地域に住む人々の医療ニーズに応え健康と福祉を実現するため、富士通は HelpAge India とパートナーシップを組み Mobile Healthcare Unit (MHU) を設立しました。MHU は、農村地域に幅広い重要な医療サービスを提供する移動救急車です。高齢者向けの無料相談と治療（自宅訪問を含む）、一般的な病気や健康上の不安などに対する医療サービスを提供します。

MHU はインド政府の既存プログラムとも連携し、長期的な視点で地域社会に良い結果をもたらす包括的なサービスを提供します。MHU には医師、薬剤師、地域活動家がスタッフとして配置されています。富士通の社員もボランティアとして参加し、患者の登録や MHU が提供するサービス内容の説明など追加支援を行っています。女性により親しみやすいサービスを提供するために、富士通からは女性社員 3 名も活動しています。

2022 年 4 月から 2023 年 3 月には、26 人の従業員が 70 時間以上の活動を行い、17,201 人を支援しました。すべてのサービスは無償で提供しています。MHU は、SDG 3「健康と福祉」にポジティブなインパクトを与えていく取り組みの一環として、農村地域のすべての人に基本的かつ必要なヘルスケアを提供するために挑戦を続けていきます。

このプログラムは、これからも大きくポジティブな変化をもたらしていきます。現在は、コミュニティの人々が健康状態や健康的な生活習慣の重要性についてより多くの情報を得ることができるようになり、無料の医療アドバイスや薬、フォローアップ治療へのアクセスにより人々の生活環境はさらに改善されました。今後 MHU は、メンタルヘルスに関するカウンセリングや、健康と栄養の啓発、予防医療についても取り組んでいきます。これらの活動により、予防プログラムなど健康に関する問題への認知を促進し、医療へのアクセスにおける男女平等を推進します。

- 活動に参加した社員数：26
- 直接の受益者数：17,201



### FTH フットボールデー 2022 (タイ)



開会の挨拶 Head of Fujitsu Thailand, Ms. Kanokkamon Laohaburanakit



Pakkret Home for Boys の子供たちとボランティアとして参加した富士通社員たち

FTH（富士通タイランド, Fujitsu Thailand Co., Ltd.）は、日本のサッカークラブである川崎フロンターレと協力して、健康の促進とウェルビーイング向上により多くの機会を必要とする Pakkret Home for Boys の子どもたちを対象としたサッカークリニックを開催しました。このサッカークリニックは、子供たちがプロサッカー選手からサッカーのスキルやテクニックを学ぶことを目的としています。私たちは、この活動が人々と社会の建設的な変化と持続可能な発展につながるものと考えています。

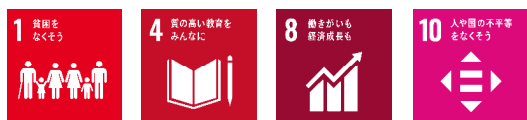
孤児の社会的な発達を支援するこのサッカークリニックをタイで提供するの、今回で3回目です。サッカーの試合を通じて、孤児たちはライフスキルとして役立つフェアプレーやチームワーク、規律について学びました。これらの学びは、将来孤児たちが地域のリーダーとなり、自立した強い地域を育てるために重要なものとなります。

FTH フットボールデー 2022 は、2022年11月12日土曜日に半日のセッションで開催しました。この活動には、FTH 職員 28 名と 6 歳から 18 歳までの子供たちを合わせて約 150 名が参加しました。川崎フロンターレのメンバーがコーチを務め、初心者向けにサッカーの基礎スキルセッションが1時間行われ、その後1時間のサッカーゲーム大会が行われました。

また FTH は、より多くの子供たちがサッカーの試合を経験したり、継続的に練習できるよう新しいサッカーゴールを2台寄付しました。お昼にはお弁当を提供し、キャラクターショーやゲームなどで自由時間を過ごしました。

- 活動に参加した社員数：28
- 直接の受益者数：150

## ● Europe



### QUEREMOS GRADUARNOS! (卒業したい!) 南米最大のスラム街に住む若者たちの教育支援 (イギリス)

- Chamos - \*イギリスに本拠地を置く NGO。この団体がベネズエラの子供たちを支援しています。



バーチャルワークショップでプログラミングを紹介



コーディングについて学習する生徒たち

南米最大のスラム街の一つであるベネズエラのペタレに住む多くの若者にとって、勉強したり教育を優先したりすることは、ほぼ不可能です。学校中退率は高く、麻薬や犯罪に手を染める機会は日常の中に存在し、高等教育に進む若者はほとんどいません。

富士通は Chamos を支援し、地元の非営利団体 Queremos Graduarnos (QG) と協力して、子どもたちや若者に登校の意欲を起こさせるための活動をしています。富士通の支援により、2022-2023 年度にこのプログラムへ参加した 55 人の生徒に奨学金を提供することができました。この奨学金は、生徒の学費や教材費、食料や交通費として活用されました。生徒は学校に通う上での障壁を取り除くとともに費用管理についても学ぶことができました。

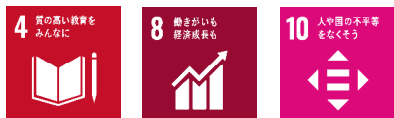
Queremos Graduarnos のプログラムの一環として、生徒たちは月に2回、自己啓発ワークショップに参加できる他、他のプログラムのボランティアとして支援活動をすることもできます。例えば、他の生徒のメンターとなったり、地元の小学校に新しい Chamos の遊び場を建設することで Chamos を支援しています。

富士通は、一部の生徒にバーチャルワークショップを提供し、コーディングスキルの重要性や将来のキャリアにおける役割について紹介しました。この活動は参加した生徒から高い評価を受けています。生徒が得た知識とインスピレーションは大変貴重であり、Chamos は将来に向けてこの分野をさらに学びたいという思いを持つ生徒をサポートする最善の方法を検討中です。

富士通の資金提供により、学校に通うための資金とサポートを必要としていた 55 人の生徒に、現実的かつ目に見える支援を提供できました。さらに、富士通の社員 4 名は、約 25 名の生徒に対してプログラミングを紹介しました。富士通は、Chamos とのパートナーシップを通じて、SDG 1 (貧困をなくそう)、SDG 4 (質の高い教育をみんなに)、SDG 8 (働きがいも経済成長も)、SDG 10 (人や国の不平等をなくそう) に、直接貢献する活動を展開することができ

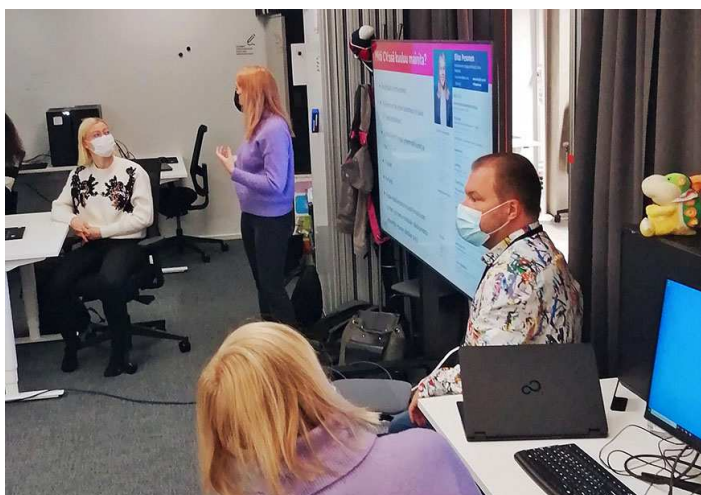
ました。これからも、ベネズエラの子どもたちや若者が、尊厳を持って成長し、その可能性を実現する機会を持つことができるよう活動を推進します。

- 活動に参加した社員数：4名
- 直接の受益者数：80名

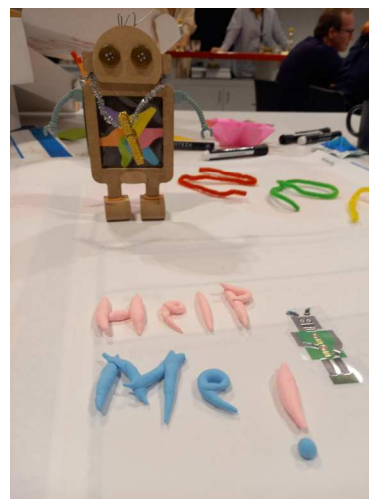


## 富士通フィンランドが若者のデジタルインクルージョンを支援する革新的なトレーニングコンセプトを開発（フィンランド）

- Deaconess Foundation -



ワークショップの様子



ワークショップでの制作物

ヘルシンキを拠点に活動する Helsinki Deaconess Foundation と富士通は、若者のデジタルスキルを向上させ、社会的な孤立を防ぐことを目的とした革新的なトレーニングコンセプトを共同で開発しました。このプロジェクトは、16～29歳の若者が、教育と就労の機会を見つけることを支援する Helsinki Deaconess Foundation が提供する Vamos という活動の1つです。

2年間のプロジェクトでは、企業の社員がボランティアとしてワークショップを実施し、若者がテクノロジーへの興味を持ち、必要なデジタルスキルを習得できるように指導します。プロジェクト終了後は、プロジェクトで開発されたトレーニングコンセプトが、若者と関わる人々にさらに広く普及することを目指しています。

富士通のボランティアは、グラフィックデザインに焦点を当てたトレーニングセッションを企画し、参加者に視覚的な訴求力がある履歴書の作成方法を教えました。また若者たちの日常生活を支援するデジタルソリューションについて考える共創ワークショップや、若者が富士通の社員と関わり、ICT業界でのキャリアについて学ぶディスカッションイベントも開催しました。さらに、富士通のボランティアは、他のパートナー企業や Vamos と協力して企画されたサイバーセキュリティに焦点を当てたハッカソンにも貢献しました。

富士通のボランティアは、Vamos で働く専門家のほか、ワークショップで約60人の若者と関わりました。このプロジェクトは、富士通に加えて、ESR React 基金と他のパートナー企業3社が共同で資金を提供しています。



Helsinki Deaconess Foundation と富士通は、若者の社会的な孤立を防ぐために長年協力してきました。 Helsinki Deaconess Foundation は、富士通のグローバル・レスポンシブル・ビジネス（GRB）の取り組みの一環として、コミュニティを活性化するための富士通の主要なパートナーの1つです。

- 活動に参加した社員数：4名
- 直接の受益者数：15名

## ● Japan



### 次世代を担う人材の育成（日本）



高校生との対話  
（「未来の語り場」プロジェクト）



共に未来を考える  
（「未来の語り場」プロジェクト）

富士通は、学びを通して一人ひとりが夢に挑戦できる未来の実現を目指し、様々な教育関連機関と連携して、創造的思考力や探究力の育成、子どもたちの原動力の発見から始めるキャリア教育、山間部や島しょ部等の地方に開かれた教育機会を支援しています。

一例として、「デザイン思考」を学校現場で求められる「社会とのつながる学び」に活かし、富士通のソリューション事例と連携しつつ、社会課題へのアプローチや実現したい社会を考えるプログラムを、複数校が参加できる形態で高校生向けに実施しています。また、自らのパーパスを心にとどめている富士通社員が、未来を担う世代と同じ目線で対話し、共に未来へ踏み出す一歩を考える「未来の語り場」プロジェクトに取り組んでいます。

- 活動に参加した社員数：573名
- 直接の受益者数：7477名

その他の日本における活動は「[社会貢献サイト](#)」をご覧ください。（日本語のみ）

## 災害・人道支援

富士通グループは、災害、紛争等で緊急支援を必要とする国々の方を、寄付を通じて支援を行っています。富士通グループは、「イノベーションによって社会に信頼をもたらし、世界をより持続可能にしていく」というパーパスを掲げています。この実現で目指す社会は「誰一人取り残さない」というSDGsの精神とも一致するものです。

2022年度は、社員からの寄付に会社としての寄付をマッチングし、以下に対する支援を目的として UNHCR と Save the Children に義援金を拠出しています。

主な災害・人道支援についてはプレスリリースをご覧ください。

1. 人道支援：[富士通グループのウクライナ情勢に関する人道支援について](#)

ウクライナおよびその近隣地域において被災された方々への人道支援のために、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）へ 100 万米ドル（約 1.15 億円）の義援金を拠出しました。

2. 災害支援：[トルコ・シリア大地震による被害への支援について](#)

当社グループは、トルコ・シリア大地震で被災した方々の救援や被災地の復旧に役立てていただくため日本赤十字社を通じて 1,000 万円の義捐金を拠出しました。また、社員から募集している公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンへの寄付について、寄付期間終了後に、社員から集まった金額と同額を会社として上乗せして寄付する「マッチング寄付」も実施しました。

# 外部団体との協業

社会や環境において様々な課題が山積する昨今、企業は、お客様や投資家の皆様へはもちろんのこと、社員やサプライヤー、大小様々なコミュニティなど、あらゆるステークホルダー（利害関係者）に対し責任を持つべきという考え方が国際的に広まりつつあります。

富士通はこの考え方に共鳴し、国際団体や志を同じくする様々な企業と連携しながら、持続可能な社会の実現に向けて取り組んでいます。

## 持続可能な開発のための世界経済人会議（WBCSD）への参画



World Business Council for Sustainable Development（WBCSD、持続可能な開発のための世界経済人会議）は、世界 200 社以上の企業が加盟する団体で、Vision 2050「90 億人以上がプラネタリーバウンダリーの範囲内で真に豊かに生きられる世界」（注 1）を実現すべく、ビジネスを通じた変革の加速に向けて活動しています。当社は 2013 年より同団体へ参画しており、現在、社長の時田が理事を務めています。

2022 年は、「The era of sustainability: how to lead the transformation and thrive」をテーマに東京で Council Meeting が開催され、250 名を超える世界の経営層が一堂に会しました。当社からは、Opening Plenary に社長の時田が、そして、ゼロエミッションに向けた道路交通に関するセッションに執行役員 SEVP の高橋美波が登壇しました。また、日本での Council Meeting 開催にあたり、当社は、同じく理事企業であるトヨタ自動車（株）と日本における WBCSD 認知度向上等を目的として、国内経営層を対象に Japan Session「サステナブル経営に向けた変革の時—日本企業への期待—」を共催しました。30 社を超える企業の参加の下、気候変動、自然破壊や格差拡大等のグローバルな諸課題への対応と情報開示の要請に対して、経営者がどのように取り組み、サステナブルなビジネスの成功に導くか、日本企業に期待される役割について議論を深めました。会期最終日には、本社のエグゼクティブブリーフィングセンター「Fujitsu Uvance Rooftop」に総会参加者十数名をお招きし、サステナビリティ関連のビジネスや先進技術の紹介と意見交換を行いました。



Japan Session にて挨拶する社長 時田

当社は引き続き、当社グループのパーパスと方向性を同じくする WBCSD との協働に積極的に取り組み、持続可能な未来の実現に貢献していきます。

（注1） WBCSD が掲げている長期 Vision 『Vision2050: Time to Transform』： <https://timetotransform.biz/>

> [WBCSD](#)

## 世界経済フォーラム（WEF）への参画



世界経済フォーラム（WEF: World Economic Forum）は、経済学者であるクラウス・シュワブ氏により設立された非営利財団で、グローバル・シチズンシップの精神に則り、パブリック・プライベート両セクターの協力を通じて、世界情勢の改善に取り組んでいます。そして、あらゆる主要国際機関や経済界、政界、学界、そして社会におけるリーダーと緊密に連携し、世界・地域・産業のアジェンダを形成しています。

2023年1月、WEF年次総会がダボスで開催されました。「分断された世界における協力の姿」をテーマに、インフレーションや物価上昇といった経済課題、地政学的リスク、エネルギーや食料などの資源問題、社会の脆弱性について議論されました。総会では、社長の時田と副社長の古田が、政財界のリーダーとサステナビリティやDX、レジリエンスの強化、デジタル・ディバイドなどのグローバル・アジェンダを共有し合うとともに、解決に向けた具体的なアクションについて、それぞれの立場から意見を交わすことができました。また、現地において、当社として初めてかつ日本企業として唯一の自社ブース「Fujitsu Uvance House」を設置し、SEVPの大西と堤、EVPの山本、Paul、Graemeの5名が、各国政府関係者や企業のトップとの間に構築したネットワーキングやFinancial Timesと共催したラウンドテーブルを通じて、重要顧客の経営層と関係性を深めました。

富士通グループは、フォーラムメンバーシップの一員として今年の年次総会のテーマの実現に向けて、グローバル・アジェンダと当社グループのマテリアリティと連動し、ネットポジティブを実現するテクノロジーカンパニーとして、グローバルコンセンサスの形成をリードしていくよう取り組んでいきます。



年次総会参加中の社長 時田 (右)と副社長 古田 (左)



Fujitsu Uvance House

> [世界経済フォーラム（World Economic Forum）](#)